

広報「まちぢ茅ヶ崎」

茅ヶ崎地区まちぢから協議会
事務局編集
(茅ヶ崎コミセン内)
発行：平成28年12月1日



会長 和田 高伸

茅ヶ崎地区まちぢから協議会（以下、「まち協」と略す）は、本年3月6日に設立総会が開催され、順調な船出を期待しましたが、横森前会長から体調不良で突然の辞退を宣告され、不肖副会長の私がバトンを受け継ぐことになりました。

新たな地域コミュニティ 「まちぢから協議会」

今までの自治会単位の自治会連合会ではなく、多くの関連団体等からなる新たな地域コミュニティとして誕生したのが、「まち協」であります。茅ヶ崎地区は、他地区と異なり、組織的にも、地理的にも複雑な体制の地区であります。

現在、「まち協」を、北地区と南地区に編成する準備委員会を立ち上げ検討中であります。

茅ヶ崎地区の地域住民の拠りどころになる組織として、また市民ファーストの立場で行政と鋭意連携するように運営していきます。



地域と市で意見交換を実施「市民集会」

平成28年9月11日（日）に茅ヶ崎地区コミュニティセンターにて、茅ヶ崎地区まちぢから協議会初めての事業として、地域と行政が意見を交わす市民集会を開催いたしました。

当日は70名の方々のご参加をいただき、市長をはじめ、茅ヶ崎市の各部部长たちと茅ヶ崎地区で抱える課題や今後の姿について意見を交わしました。

市民集会での市への質問と回答要旨

- 飯島歩道橋の撤去及び交差点のスクランブル化について**
→歩道橋はH29年度撤去を計画、その後スクランブル化を目指す
- 茅ヶ崎市の自転車対策を行う部署の立ち上げについて**
→次回組織見直しの時期に様々な状況を考慮しながら研究を進める
- 茅ヶ崎駅南口前の道路改修や配置変更などについて**
→茅ヶ崎警察や県警本部、交通事業者などと協議しながら進めていく
- 茅ヶ崎駅のホーム拡幅について**
→費用や工期などの課題はあるが粘り強くJR東日本に要望を続ける
- 災害発生時の茅ヶ崎駅を中心とした帰宅困難者への対応について**
→駅周辺の施設などと連携しながら円滑な避難誘導を行う
- 茅ヶ崎地区が抱えるクラスター問題への対策・補助等について**
→クラスター問題に対して各課で様々な取り組みを行っている
- 地域の緑化推進のための市の取り組みについて**
→記念樹の配布や事業者と協力した緑化の推進、道路沿いの植樹を進めている
- 市役所旧庁舎の解体スケジュール及び跡地利用の計画について**
→H29年度末までに解体し、その後については決まり次第周知する

茅ヶ崎地区の再編成進む

この茅ヶ崎地区においてはJR東海道線の線路を境とした北地区19自治会と南地区5自治会の24自治会で茅ヶ崎地区としてこれまで活動してきましたが、平成29年4月より茅ヶ崎地区は北地区と南地区に再編成を行います。

JR東海道線以南で新たな地区立ち上げへ

再編成は茅ヶ崎地区から南地区を分離し、南地区の5自治会に中海岸自治会が加わった6自治会で新たに「（仮称）茅ヶ崎南地区」を立ち上げることとなっています。南地区が抜けることに伴い、茅ヶ崎地区は（仮称）北地区として、地域で活動する様々な団体間の情報交換を行っている茅ヶ崎地区まちぢから協議会の組織整理や規約改正などを進めていきます。

再編成に向けては北地区、南地区それぞれで茅ヶ崎地区まちぢから協議会より推薦を受けた委員により、それぞれの地区で準備委員会を立ち上げ協議を重ねています。今後は、隣接する自治会連合組織や茅ヶ崎市役所とも連携しながら再編成に向けて準備を進めていきます。

地域活性化分野 マンション建設計画 への地域の取り組み

昨年、南口雄三通り沿いに2箇所のマンション建設計画が持ち上がりました。幸町自治会では、近隣住民を対象とした事前説明会に出席しました。計画は2箇所とも道路境界線ギリギリに建造物や植栽帯が設けられるものでした。

雄三通りは、歩道がなく路線バスを始め、タクシーやその他一般車両が行き来するJR東海道線以南では、最も交通量が多い道路の一つです。そのような中、歩行者の安全性、とりわけ車椅子の方や杖を利用されている方、子育て中のベビーカー等の安全性の確保が気になっていました。

周辺自治会と連携した 建設計画に協力を依頼

自治会では、この度の建設計画に当たり、建築主に道路の現状を説明のうえ、地域貢献として、建造物等を道路境界線より約1m程度後退していただきたい旨、お願いをいたしました。結果として、建築主は当初設計を変更し、建造物等を道路境界線より60cmから150cm後退させ歩行者のための空地を設けていただくことになりました。

今回の取り組みについて、幸町自治会と南駅前商店会では、建築主へ感謝の意を表わすとともに、今後も発生するであろう雄三通り沿いの高層建築物へ連鎖させたく、ステンレス性銘板に「地域貢献建築物第〇号」と表示し、建物の名称、建築主名、趣旨を記載して建物の道路側壁面に張らせていただくことといたしました。

今後、こうした市民サイドの取り組みが、地域の「まちぢから」として、幅広く展開されることを期待します。

梅田小学校での防災訓練



10月15日恒例の茅ヶ崎地区の防災訓練が梅田小学校校庭にて行われました。本年は好天に恵まれたためか、防災に対する関心が高まったためか、500人超の地域の方々が参加されました。災害時には一人でも多くの若い人の力が必要不可欠であり、地域の中学生の参加が欲しかったと



ころ、梅田中学校の地域活動への積極的な参加という学校方針に基づき、73名もの梅中生も参加され、今後の地域防災強化に心強い力となると期待されています。訓練はテント設営訓練に始まり、防災リーダー、消防団員、市職員の方々を中心に放水訓練、搬送訓練、三角巾訓練は参加者を

4グループに分け順次実施しました。本年より、最近の災害時の経験から、新たに2つの訓練が提案されました。1つは情報伝達不足を防ぐための「情報伝達訓練」、各自治会より選出された方々で実施されました。2つ目として、ペットの「避難訓練」、今回は参考展示でしたが、訓練の合間を見て見学された方も多くおられました。



茅ヶ崎小学校での防災訓練



南地区5自治会主催の平成28年度防災訓練が10月16日(日)8時50分より、茅ヶ崎小学校を会場に開催され、約250名近くの住民が参加し、大地震が発生した場合、自らとるべき行動について、真剣に学びました。

応急活動訓練を実施し緊急時の処置方法を学ぶ

5自治会の防災リーダー(約60名)が6月より準備を進め、手作りの防災訓練を練り上げ、実施しました。特に、住民の命を大地震から守るためには、家屋の耐震化や家具の転倒防止の大切さを、ストーリー性のある訓練で、理解を深める必要があるとの認識から、大地震発災後、住民自らが「安否確認・救出・情報受伝達・応急手当・搬送」等、一連の応急活動を理解し、実施できるよう訓練しました。災害対策地区防災拠点は避難所が開設される小学校に設置され、茅ヶ崎市役所の配備職員を中心に運営されます。

熊本地震の教訓を生かし情報受伝達訓練を実施

熊本地震での教訓を踏まえ、地域の情報を市災害対策本部へ迅速かつ有効に伝達し、行政の応急活動につなげるための訓練です。

地域課題の把握進め より良い茅ヶ崎地区に

地域福祉部会

高齢者にとって 安心・安全な地域を目指す

一人暮らし高齢者の安否確認や各地域に高齢者や子ども達が世代を超えて集う事のできるサロンの運営など民生委員・児童委員や地域の皆さんが力を合わせ、顔の見える地域づくりに取り組むたいと思います。また、災害時要援護者についても自治会を始め、防災リーダーとの連携をさらに推し進め、安全・安心な地域づくりに努めたいと思います。

青少年育成部会

各団体で連携を図り 青少年育成に取り組む

各小学校のPTAの皆さんや青少年育成推進協議会をはじめ、青少年育成活動に取り組む各種団体との連携のもと、子どもの安全・安心のため、児童の登下校時の見守り活動を推進したいと思っています。

健康・スポーツ部会

心も体も健康な 茅ヶ崎地区へ

この部会では、健康講座の開催やスポーツ交流会などを定期開催し、茅ヶ崎地区で生活する方々の健康増進に努めます。

